

令和7年度 総合的な学習の時間 全体計画案 江戸川区立南篠崎小学校

名称： 総合的な学習の時間

学校の教育目標	・よく考え進んで学ぶことも ・明るく思いやりのあることも ・きまりを守り責任を果たすことも ・心身ともにたくましいことも
---------	---

国が示す総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の課程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の総合的な学習の時間の目標

- 1自ら課題をもち、主体的・創造的に追究し、解決する資質や能力を育てる。
- 2探究活動に主体的に取り組む過程を通して、学び方を身につける。
- 3学んだことを学習や生活に生かそうとする気持ちを育てる。
- 4学んで気づいたことやわかったことを、自分なりの方法でまとめ、表現する力を育てる。
- 5自分の思いや考えを大切に、友達と協力しながら、問題の解決や探究活動に取り組む態度を育てる。

育てようとする資質や能力及び態度

知識及び技能	
第3・4学年	第5・6学年
動植物の世話を通して、生命が多様に存在していることを知る。郷土の歴史や文化のよさを知る。アスリートの夢と努力を知り、自分の生活を振り返る。ローマ字入力やインターネット検索等のパソコンスキルを高め	稲作文化や雪国の暮らし、昔の人々の暮らしを体験的に理解する。福祉や外国の文化について調べ、互いに関わり合うよさを考えて話し合う。
思考力・判断力・表現力等	
第3・4学年	第5・6学年
問題状況の中から課題を発見し、設定する。手段を選択し、情報を収集する。課題解決を目指して、事象を比較して考える。相手に応じて分かりやすくまとめ、表現する。	解決の方法や手順を考え、見直しをもって計画を立てる。必要な情報を収集し、分析する。相手や目的に応じて分かりやすくまとめ、表現する。学習の仕方を振り返り、今後の学習や生活に生かそうとする。
学びに向かう力・人間性等	
第3・4学年	第5・6学年
目標を設定し、課題の解決に向けて行動する。自己の将来を考え、夢や希望をもつ。異なる意見や他者の考えを受け入れる。	自らの生活の在り方を見直し、実践する。他者と共同して課題を解決する。自己の将来を考え、夢や希望をもつ。身の回りの環境とのかかわりを考えて生活する。

内 容	学習対象	学習事項
第3学年	虫を育てよう 小松菜を育てよう 昔の暮らしの様子を調べよう	学校で見つけた生き物の飼育し、興味をもったことを調べ、本にまとめる。 農園で野菜を作って、収穫祭を開こう。 昔の暮らしの様子について学校図書館やインターネットで調べ、まとめる。
第4学年	オリンピック・パラリンピックを調べよう。 パソコンで学習のまとめをしよう 私たちの東京都・世界に誇る東京 SDG'sについて知ろう(キャリア教育)	オリンピック・パラリンピックの競技や選手について調べる。 パワーポイントなどを活用し、調べたことを効果的にまとめ、発表をする。 身近な地域や東京都について調べ、情報を発信していく。 SDG'sについて学校図書館やインターネットで調べてまとめ、発表する。
第5学年	稲・田んぼ(稲の成長、田んぼの生き物) 福祉の心を育てよう(体の不自由な人や年配者) ウィンタースクール(調べ学習、報告書作成)	米作りについて学校図書館やインターネットで調べる。 バケツ稲を育て、観察する。 福祉について調べ、体験し、考える。 雪国の自然や暮らしについて調べ、体験し、まとめる。
第6学年	歴史に親しもう(昔の暮らし調べ・体験) 日光移動教室(日光の自然・歴史・文化) 外国の文化を調べ、日本の文化に触れよう	縄文人の暮らしについて学校図書館やインターネットで調べ、まとめる。 歴史の学習の中で、体験できる活動を見つけ、計画を立て実行する。 日光について調べ、移動教室の体験を活かしてまとめる。 日本とかかわりのある国の文化について調べ、日本文化への理解を深める。

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
学習内容は、学年共通とする。課題の内容や児童の実態に応じて、学年合同で取り組んだり、学級ごとで取り組んだりする。児童の興味・関心に基づく課題、学年に応じた課題、地域や学校の特色に応じた課題などで、単元を設定する。	問題意識を高め、課題を明確にし取り組む工夫をする。解決に向け、見直しをもった活動ができるよう手立てや準備、情報収集についての工夫をする。体験、観察、実験、発表、討論などを重視する。各教科との関連を図った学習活動を実施する。協働的な学習の場面を充実する。	各単元の専門のゲストティーチャーや地域の人材の活用を積極的に取り入れる。個人やグループでの学習など多様な学習形態に対応できる指導体制を確立する。	個人の成長や成果を重視する。指導と評価を一体化する。学期末や学年末に指導計画の見直しと、再構成をする。授業分析により指導内容や方法を評価する。